

薬用作物(生薬)産地化推進のための行政担当者情報交換会を開催

10月31日(火)、AP東京八重洲会場において、薬産協主催による行政担当者を対象とした情報交換会がハイブリッドで開催された。当日は、会場に7名、リモートで53名、計60名の参加があり、行政担当者の薬用作物産地化に対する関心の高さがうかがわれた。

今回は、下記の通り、2つの自治体組織より薬用作物栽培への取り組みについて、また農水省より同省の事業について説明があった。

* 資料は薬産協HPに掲載

<https://www.yakusankyo-n.org/event/y2023.htm>

◆「生薬の郷を目指して」

秋田県八峰町 農林振興課 副課長 門脇 朝哉 先生

◆「三重県鈴鹿地域における薬用作物の取り組み」

三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 花植木研究課

主幹研究員兼課長 市川 昌樹 先生

◆「農林水産省の事業の説明」

農林水産省 農産局 果樹・茶グループ 課長補佐 福田智之 先生

講演終了後には、約1時間意見交換の場がもたれ、行政関係者との人間関係の構築や生産農家とのかかわり方、また行政担当者としてのモチベーションの保ち方や困難な条件下での生薬栽培のノウハウに関する内容等、参加者がそれぞれの立場で抱える様々な課題や切り口から多くの活発な情報交換が行われた。

今後、薬産協としては、さらに薬用作物への生産意欲の向上を図るべく、各地における産地化に向けた取り組みを共有する機会として、説明会等を継続して実施する等、情報提供活動を精力的に展開していく予定である。



【会場の様子】



【ディスカッションの様子】

(右から、市川先生、門脇先生、福田先生、小柳班長)